

各位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3  
電話 023-634-4120

## 山形市野草園からのお知らせ(4月号)



1



2



3



4

### 百花繚乱 野草園の春

- |   |                 |                             |
|---|-----------------|-----------------------------|
| 1 | ザゼンソウ (サトイモ科)   | ミズバショウより一足先に顔を出す紫褐色の花 (仏炎苞) |
| 2 | ミズバショウ (サトイモ科)  | 野草園のシンボル 真っ白な仏炎苞が美しい        |
| 3 | フクジュソウ (キンポウゲ科) | 光輝く黄色い花は光を感じて開いたり閉じたり       |
| 4 | オオヤマザクラ (バラ科)   | オオヤマザクラで有名な西藏王 濃い紅色が鮮やか     |

例年がない大雪にみまわれた今年の山形の冬、3月初めは野草園でも1m以上の積雪があり、ここ数年では一番多い積雪でした。そんな中でも、春の光を待ちわびた早春の植物は開花に向けて着々と準備を進め、皆さんを待っています。

大雪の影響で、例年よりは開花状況が遅れ気味になることが予想されますが、雪の中から顔を見せる早春の植物に出会えるのも楽しみのひとつです。他の植物に先駆けて開花する「マルバマンサク」、湿地に咲く「ザゼンソウ」や「ミズバショウ」、光輝くパラボラアンテナのような形の「フクジュソウ」、そして、次々に開花する数多くのサクラの仲間、野草園に足を運べば4月だけで百種類以上の春の花を観察することができます。さあ、《百花繚乱》春の花たちに会いに出かけませんか。

## 4月の予定

### ◆開園期間・無休期間

- 開園期間 4/1(金)～11/30(水)
- 休園日 毎週月曜日(ただし 月曜日が祝日の場合は翌平日)
- 無休期間 4月第3週～6月第2週(花がたくさん咲く時期は無休)



### ◆開園記念 花苗プレゼント

- 日時 4/1(金) 午前9時から なくなり次第終了
- 内容 先着100人にオキナグサの苗をプレゼント(高校生以下は除く) ○費用 入園料300円

### ◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期間 野草園開園期間 4/1(金)～11/30(水)
- 内容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与(1日1回まで) 《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

### ◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施  
(ただし、4月第3週～6月第2週は 土曜日も実施)
- 時間 ① 午前10時30分～午前11時30分 ② 午後1時30分～午後2時30分
- 内容 その日の見頃の場所・見頃の植物を案内
- 人数 各回先着10人 園内学習センター前集合
- 費用 参加費無料 《ただし入園料300円(高校生以下無料)》

### ◆野草園写真展(紅の蔵)

- 日時 4/1(金)～4/24(日) 午前10時～午後6時
- 会場 山形まるごと館 紅の蔵 街なか情報館
- 内容 令和3年度写真コンテスト入賞作品を展示  
(杉崎紀世彦・杉崎文子ボタニカルアート展と同時開催)
- 費用 無料

### ◆バードウォッチング

- 日時 4/16(土) 午前9時～午前11時
- 内容 野草園内での野鳥の観察 ○対象 県内在住者 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込 400円(高校生以下無料)
- 持ち物 双眼鏡(野草園でも貸し出しあり)
- 申込 4/5(火)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120



### ◆カブトムシの育て方教室

- 日時 4/23(土) 午前10時～午前11時
- 内容 幼虫2匹を配布、育て方の学習
- 対象 県内在住小学生親子 先着15組30人
- 参加費 材料代・入園料込 親子1組800円
- 申込 4/15(金)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆四季観察会(西藏王のサクラ)

- 日時 5/2(月) 午前9時30分～正午
- 場所 野草園内
- 内容 ミヤマカスミザクラなど見頃の花を中心に案内
- 対象 県内在住者 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込400円(高校生以下100円)
- 申込み 4/15(金)より 電話で野草園まで  
TEL023-634-4120



世界で野草園にしかないミヤマカスミザクラ  
(5月上旬)

### ◆山野草の育て方教室

- 日時 5/17(火) 午前10時～正午
- 場所 野草園自然学習センターピロティ
- 内容 トビシマカンゾウ、ギボウシ(レモンライム)、ノアザミ(白花)の寄せ植え  
育て方についての説明
- 対象 県内在住者 先着13人
- 参加費 材料代・入園料込3,000円(高校生以下2,700円)
- 申込み 4/15(金)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120

### ◆サクラ祭り

- 期間 4/23(土)～5/8(日) 午前9時～午後4時30分
- 内容 期間中はソメイヨシノ、オオヤマザクラなどのサクラが次々に開花します。

### ◆カフェの営業・山野草販売 (自然学習センターで販売)

#### ○カフェやまぼうし

《営業》木曜・土曜・日曜・祝日 午前10時30分～午後2時30分

《メニュー》カレー、ピザトースト、サンドイッチ、バナナシェイク、コーヒー

#### ○山野草販売

《営業》土曜・日曜・祝日に販売予定(平日販売の場合もあり・夏の期間休業あり)

### ◆開花した花等の紹介

○野草園のホームページから観察日記・インスタグラムをご覧ください。

園内の様子や開花状況等をお知らせいたします。

○ホームページ内の「植物検索システム」で園内の植物を検索できます。

検索できる植物を少しずつ増やしていく予定です。



▲野草園観察日記▲



## ●●● 4月に見られる主な花 ●●●



### マルバマンサク(マンサク科)

マンサクが太平洋側に多いのに対して、マルバマンサクは日本海側に多く積雪地に適応したタイプです。花はマンサクと同じですが、葉の上半部が丸いのが特徴です。線形で黄色の花弁と紫紅色の萼が良く目立ちます。春に先駆けて「まず咲く」のでマンサクといわれています。



### ザゼンソウ(サトイモ科)

「ミズバショウの谷」の湿地に他の花に先駆けて咲き始めます。花の様子が、僧が座禅をしているように見えることが名の由来です。別名ダルマソウとも言われています。紫褐色の花のように見えるものは仏炎苞と呼ばれ、葉が変形したものです。仏炎苞の中の黄褐色の楕円形の部分が花序（花の集まり）です。自ら発熱し雪を溶かして芽を出す性質があります。



### フクジュソウ (キンポウゲ科)

雪が解けると、土の中からいち早く咲き出すのがフクジュソウです。落葉樹林の中で早春に花を咲かせて実を結びます。福寿草や長寿草、元日草など、縁起のよい名前がたくさんあります。金属光沢のある黄色い花は、春の光をいっぱいあびて大きく開花します。曇りの日は花を閉じます。



### クリスマスローズ (キンポウゲ科)

中国原産の多年草です。暖かい地方ではクリスマスの頃から開花するのでこの名がついています。白または淡い赤紫色を帯びた5枚の花弁状の萼片の中央に、多数の雄しべとそのまわりに緑色を帯びた筒形の短い花弁があります。野草園では雪解けとともに開花します。



### オオミスミソウ (キンポウゲ科)

雪解けの頃、落ち葉を押し除けて咲き、雪割草とも呼ばれています。常緑の多年草で、葉は浅く3裂し先は少しとがります。ミスミソウとスハマソウに似ていますが、全体的に大型です。ミスミソウ（三角草）の名は葉の形にもとづいたものです。「ミズバショウの谷」の木道近くの斜面に咲いています。



### セツブンソウ (キンポウゲ科)

旧暦の節分の頃に開花するので節分草と呼ばれていますが、野草園では雪が解けるとすぐに開花します。花弁に見えるのは花弁状の萼片で、普通5個あり、花弁は5~10個あり、先端は2裂し、黄色から橙黄色の蜜腺になります。真ん中の雄しべの葯は紫色で大変きれいです。春の妖精、スプリングエフェメラルのひとつです。



### リュウキンカ(キンポウゲ科)

金色の花が、立った茎に咲くので「立金花」と言われています。湿地や沼地に生える多年草で、葉はフキのようなまるい形をしています。黄色の花のように見えるのは花弁状の萼片で、花弁はありません。「クリンソウの谷」、「ミズバショウの谷」に咲いています。



### ミズバショウ(サトイモ科)

野草園のシンボルでもあるミズバショウ、白いものは葉の変形した仏炎苞、その中の黄色いものが花の集まりの花序です。バショウとはバナナの1種で、葉の長いものは2mになります。ミズバショウの葉も花後は80cm位になります。バショウの葉に似て、水辺が大変好きなのでミズバショウという名がつけました。



### アズマイチゲ (キンポウゲ科)

春の短い期間だけ咲いて、初夏には枯れてしまいます。キクザキイチゲと似ていますが、葉に切れ込みが少なく、肩を落としているように垂れ下がっていることで見分けることができます。花弁状の萼片は白色で基部と裏側は少し紫色を帯びています。主に東日本に多く分布しイチリンソウ(イチゲ)の仲間なのでこの名がついています。



### キクザキイチゲ(キンポウゲ科)

まわりの木々が葉を茂らせる前にいち早く咲き出します。名前からもわかるように、花弁状の萼片が多く、葉は切れ込みが多く、キクの花に似ています。花色は多彩で淡紫青色から白色までいろいろあります。日が当たると花を開き、曇ると花を閉じてしまいます。



### ショウジョウバカマ (シュロソウ科)

春いち早く咲く常緑多年生の草本です。葉は地表に広がってロゼット状になり、花茎の先に数個の花を横向きにつけます。花は淡紅色から濃紅紫色まであり、花後は緑色になって残ります。名前の由来は、花を能楽の「猩々(しょうじょう)」の赤頭の毛に例え、葉を袴に見立てたものと言われています。



### イワウチワ (イワウメ科)

常緑の多年草です。岩地に生え葉がうちわに似るのでこの名があります。葉は、質が厚く光沢があり、長さより幅が広いのが特徴です。葉の間から花茎を立てて、1茎に1花をつけ、花は横向きを開き、淡紅色で先が細かく切れ込んでいます。



### アカヤシオ (ツツジ科)

まわりの木々が芽吹く前で、ピンク色の花がひととき目立ちます。枝分かれが多く、葉が開く前に、枝先に淡紅紫色の広い漏斗状で5裂した花弁と、雄しべ10個の花をつけます。葉は広楕円形で先がとがり、枝先に5枚輪になってつきます。葉柄や葉縁には2mmをこえる毛が生えています。



### カタクリ (ユリ科)

1枚の細長い葉から平たい葉になって、2枚の葉を出すようになると花を開きます。種子から開花まで7年~8年もかかると言われています。花は淡紅紫色で、花弁のつけ根に濃紫色のW字形の模様があり、上の方へ大きくそり返ります。カタクリのでんぷんから採ったものが本物の片栗粉です。



### オキナグサ (キンポウゲ科)

花は花茎の先に1個つき、つり鐘形です。葉は白い毛でおおわれ、花弁状の萼片の外側にも白い毛が密生しているので白っぽく見えます。萼片は6個あり、内側は暗紫赤色です。花が終わった後、雌しべは長い羽毛状の果実の集まりになります。それを老人の白髪にたとえて、オキナグサ(翁草)と名付けられたと言われています。



### オオバナノエンレイソウ (シュロソウ科)

北海道に多く自生し、大群落をつくるといわれています。大きな3枚の葉の上に可愛い白い花をつけます。萼に相当する外花被片は緑色で先が尖ります。花弁に相当する白い内花被片は先が円くなります。芽生えから開花まで、10~15年かかるといわれ、7~8年ほどかかるカタクリよりもずっと長くかかります。



### キタコブシ (モクレン科)

冬には長い軟毛におおわれた花芽がたくさんついていました。春になると白い花を枝いっぱい咲かせます。花弁は6枚あり、花の下に小形の葉が1枚つきます。これが他のモクレン科の花との違いです。花芽や花を見ても名前の由来は分かりませんが、秋に実る果実を見るとよく分かります。果実が「握りこぶし」に似ているのです。



### ユキツバキ (ツバキ科)

東北地方から北陸地方の日本海側の多雪地に咲く常緑低木です。高さは2mほどになりますが、多雪地帯に適応したタイプで、幹は地をはい、平たい半球形の樹形を作ります。ヤブツバキと比べると、葉と花弁は質が薄く、花糸は黄色です。咲き終わると、花全体が落ちてしまいます。



### ヤマウグイスカグラ (スイカズラ科)

山野に普通に生え、よく分枝して高さ約2mになります。花はやや曲がった漏斗状で先端は5つに裂けます。葉は開花後に開き、長さ約5cmの楕円形です。初夏にグミに似た実が赤く熟し、とても甘いです。名は、古名ウグイスガクシの転訛とされています。



### ニンリンソウ (キンポウゲ科)

ひとつの茎に2個の花をつけることが名の由来ですが、花は1個のことも、3個のこともあります。白色の花は花弁状の萼片で、5~7枚あります。葉は3つに深く裂けていて、淡白色の斑点があります。葉が毒草のウゼントリカブトにそっくりです。

## 4月に見られる主なサクラ



### オクチョウジザクラ（バラ科）

太平洋側のチョウジザクラに対して、日本海側に分布するサクラです。花の萼筒が長く、少しふくらみます。横から見ると花弁と萼筒が丁字形をしているのが名前の由来です。花は最初は白っぽく、花の終わりには赤っぽくなります。園内ではジュウガツザクラに次いで早く咲きます。



### オオヤマザクラ（バラ科）

日本の固有種で、日本に自生するサクラ属の基本野生種のひとつです。東北地方や北海道に多く、それ以外の地域ではやや標高の高い山地に生えています。ヤマザクラよりも葉や花が大きいことが名前の由来です。赤っぽい色をした若葉が開くと同時に淡紅色の花を咲かせます。花色はヤマザクラより濃く、小花柄は無毛です。6～7月に果実をつけ、葉は夏には暗い緑色に変化します。



### エドヒガン(バラ科)

日本の固有種で、日本に自生するサクラ属の基本野生種のひとつです。ソメイヨシノより一足早く咲く、薄紅色のサクラです。萼の付け根がブククリと丸く膨らんでいるのが大きな特徴です。葉が開く前に花が咲き、ソメイヨシノの片親としてもよく知られています。長寿の種としても存在感があり、樹齢 100 年を超える大桜も多いようです。



### オオシマザクラ(バラ科)

日本の固有種で、日本に自生するサクラ属の基本野生種のひとつです。白色の一重咲きの大輪の花を多く咲かせます。白い花と緑色の葉が同時に開くので、そのコントラストが美しいサクラです。花と葉には芳香があります。肉厚の葉には毛が無く、塩漬けにされ桜餅の葉として利用されます。



### ソメイヨシノ(バラ科)

エドヒガンとオオシマザクラを両親とする最も有名なサクラです。葉が開く前に薄紅色の花をたくさんつけるその美しさから多くの人々に愛され、全国に数百万本も植えられているといわれています。サクラというとソメイヨシノのイメージをもっている方がほとんどです。